

会 議 録

会 議 名	令和6年度第2回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 「介護予防10年の計」の実施状況について(報告) (公開) 2 高齢者なんでも相談室(地域包括支援センター) の令和5年度事業実施報告及び令和6年度事業実施 計画について(報告)(公開)
日 時	令和6年5月22日(水) 午後1時30分から午後2時40分まで
場 所	市役所高層棟8階 大会議室
出席者氏名	会 長 鈴木 隆一 委 員 古賀 晴美 豊田 義雄 寺嶋 雪子 大用 菜穂子 中村 綾子 白島 智子 高森 輝行 山崎 美紀 山名 裕里 江幡 吉生 須賀田 貞彦 中山 道子 藤本 司 澤田 健次郎 篠田 恵美子 藤井 愛子 波戸 タカ子 森田 邦子 三輪 秀民 天神 敏門 鏡 浩美 内藤 公子 事務局 今村 繁 (副市長) 小林 智彦 (福祉部長) 山口 忠司 (福祉部次長兼高齢者支援課長) 吉田 陽子 (高齢者支援課長補佐) 石栗 章男 (高齢者支援課長補佐兼介護認定係長) 高梨 慧 (高齢者支援課高齢者支援係長)

	土屋 耕太（高齢者支援課介護給付係長） 花嶋 智史（高齢者支援課副主幹兼地域包括支援センター長） 田中 道男（高齢者支援課高齢者支援係主査） 神吉 真帆（高齢者支援課高齢者支援係主任主事） 雨宮 和也（高齢者支援課高齢者支援係主任技師） 宮本 優里（高齢者支援課高齢者支援係主事） 宇佐見 有希（高齢者支援課地域包括支援センター主査） 三浦 明日香（高齢者支援課地域包括支援センター主任主事） 岡田 譲史（高齢者支援課地域包括支援センター主任主事） 海老原 純一（生活支援課長） 岡田 勇貴（障がい者支援課長） 峯崎 光春（保健センター長） 山本 茂（市民生活部参事兼国保年金課長）
欠席委員氏名	副会長 小林 幸男 委員 中林 隆 秋田 茂 遠山 康雄 鈴木 剛 柳田 信也 高橋 武宜
傍聴者	1名
非公開の事由	—
議 事	令和6年度第2回野田市老人福祉計画及び介護保険事業計画推進等委員会の会議結果（概要）は次のとおりである。
鈴木会長	令和6年5月22日 午後1時30分、開会を宣言 会議の成立を報告した。 審議の公開について報告した。 傍聴について説明した。

高齢者支援課長補佐	欠席の委員を報告した。 会議録作成のため録音機を使用することを報告するとともに、発言について説明した。
鈴木会長	議題1「介護予防10年の計」の実施状況について事務局から報告を受けた。 質問等を委員に問うた。
三輪委員	5ページから6ページにかけてのシルバーリハビリ体操とのだまめ学校の課題と対応策について、私の意見を二点ほど述べたいと思う。 まず一点は、ここに書いているとおり、「初級指導士養成のための講習会への参加者が定員に達しない」ということである。また、「参加者は体を動かすことを目的として参加している」とあるが、私には良く理解できる。というのは、西東京市健康課が所管する「しゃきしゃき体操」というものがあり、この普及のため私がリーダー、ボランティアベースの指導者という意味合いでそういう名称はついているのだが、その一員として教室を運営していた際、何人かの参加者に「リーダーとして手伝っていただけないか。」と声を掛けたところ、「参加者なら良いが、リーダーになるのは勘弁してほしい。」という方がほとんどであった。だから、そういう講習会で人数がたりないということはある程度理解できるということである。指導者を増やす決め手は多くはないが、本文にあるように、活動内容と魅力を周知することは大切だと思う。それに加え、次の三案を提案したい。

福祉部次長兼高齢者支援課長	まず一つ目、指導者への何らかのインセンティブの付与、例えば、ボランティアのポイントの付与などである。 二つ目、指導者研修会の開催、これをやることによって、モラルアップ及びモチベーションアップを図るということである。 三つ目に、できるだけ多くの市民、参加者のことだけれども、を巻き込んだ運営、これらを検討してはいかがかと思う。 次に、二点目は、介護予防の重要性に関しては、最近NHK総合テレビで報道されたが、埼玉県鳩山町の体力や認知機能に合わせた「3段階体操教室」や、鹿児島県いちき串木野市の「ころばん体操」などにより、それぞれの市町村での介護保険料が低く抑えられているということである。野田市においても、自立支援や介護予防への取組について一層の強化を期待したい。 まず、初級指導士の養成に関しては、先ほど報告したように、養成講習を受講していただいている方が少ないというのが一点、それから実際に講習を受講して初級指導士になられた後に、初級指導士会に加入して、各地区での教室の開催等に協力いただいているのだが、そういったところでの活動に参加いただけない方もいるということである。やはり、自分で体を動かすというのはいいのだが、皆に自ら教えるのはという方も、実際にいるというのが現状である。そのため、私どももせっかく資格を取っていただいたということで、何とか協力いただけるように、PRをしてい
----------------------	---

山名委員	きたいと思っている。先ほど三輪委員からも、例えばインセンティブであるとか、指導士研修会の開催であるとか、そういった意見を頂いた。フォローアップ研修等を実施して指導士の、レベルアップを図るということも実際に行っているのだが、今後もいろいろな方法を、市としても考えていきたいというふうに思っている。 それから、介護予防の重要性ということでは、私もやはり介護予防を重視していくことで、皆が高齢になっても元気で過ごして、介護給付の方も削減していくというところにつなげたいところがある。例えばシルバーリハビリ体操やのだまめ学校などの既に実施しているものをどうするかというところに目が行きがちになってしまうのだが、今、他の市町村の例を参考として挙げていただいたので、私も今やっているものはもちろん、他市で行っている事業等に目配りをして、どういった取組が効果的なのかということを考えていきたいというふうに思っている。 二点、質問がある。 資料４ページの介護予防サポート企業のところに、スポーツクラブ&スパルネサンス野田がある。先日、認知症サポーター養成講座をルネサンス野田の職員向けにやる打合せに行った際に、野田市の介護予防事業、恐らく短期集中で行われる総合事業のサービスＣのことだと思うのだが、それを是非やりたいと言って、何年か前にそういうような話があったのだけれども、止まっているという話があった。やはり市民も、短い時間で機能訓練をやりたいという希望が非常
------	---

福祉部次長兼高齢者支援課長	に多くなっており、今後、この介護予防事業を進める予定はあるのかどうかというところを一点お聞きしたい。 それから資料の 7 ページの、のだまめ学校のところなのだが、出前講座が令和 5 年度の 54 回から今回 72 回に予定回数が増えているのだけれども、一つの団体で、今までは年度 3 回出前講座を行っていたものが、年度 2 回に減らされたというその理由を聞かせていただけたらと思う。 まず一点目の質問について、恐らく総合事業のことだと思うのだが、野田市においては、総合事業は基本的に緩和した基準のサービスや、住民主体のサービスであるとなかなか質の確保が難しいということから、これまでそういったサービスは導入していない。今回第 9 期計画においても、基本的にはそういった多様なサービスについては導入しないとなっている。また、4 年度に行ったアンケート調査においても、従前相当サービスと比べ、多様なサービスのニーズが低いという結果が示されていたところである。ただし、第 9 期では基本はそういった考え方で進めていくのだが、検討はしていく。第 9 期シルバープランでも「今後も受給動向を注視し、多様なサービスの導入について検討していきます。」と記載しているが、受給の状況や、サービスの効果がどの程度あるのかというところは、今後も検討は続けていきたいと思う。 二点目の出前講座なのだが、先ほどののだまめ学校の課題として、リピーターの方が多くて新規の方が少ないという状況があるということであったので、限ら
---------------	---

白島委員	れた回数の中で、できるだけいろいろな地区に出向いて出前講座を行いたいという考えもあり、今回そのような対応をとらせていただいたところである。 例えば、企業で参入したいというところを積極的に、もちろん市民をまずというのはわかるのだが、企業で積極的にやっていきたいというなら、そちらも先にやったらいいのではないかなと思う。そこで市民にPRをどうしていくかということと、先ほどおっしゃっていたような、特定の人に参加していて周知が他の方に広がっていないということ、やはりPRをどうするかということである。何をやってもそうなのだが、なかなかPRをして広がっていくことがないので、そういうことも含めて、野田市の予防に対して積極的に企業が参入するなら、そちらを取り入れてしまい、そこから逆に市民を引っ張り上げていくというのも一つの方法かなと思う。 私の質問は、令和4年度と5年度の今のデータなのだけれども、コロナで随分やれていない時期がり、コロナ前のこの事業のデータと、大体あけてきた5年度で、どれだけ回復しているのか、何かわかる資料があれば教えてほしい。
福祉部次長兼高齢者支援課長	今、手元にコロナ以前からのデータはない。ただし、確かに令和4年度も、その前の3年度及び2年度もコロナで参加者が少ない、あるいは事業そのものを実施していなかったというものもあるので、その前の令和元年度等と比べると、事業によっては例えば参加者数が少ないなど、そういった事業も実際にはあるこ

	とは確かである。今後、当然令和4年度や3年度等のコロナの期間だけではなく、それ以前も見据えて参加者を増やすなど、例えばそういったところの周知を図り皆に参加していただくという形での対応を検討していきたいと思う。
白島委員	結局、10年の計で今までやってきたが、現状で予防ができていいのかというのが一番大事なことなのだと思う。その中から、そのPRをどうするかなど、例えば決まった人しか出ていないけれども他の人も出てもらい予防を強化していくというところをどうしていくかなどの、そういう視点での見方の方が、効果があると思っている。そのため比較するときには、そこにコロナが入ったけれど、その前に途中まで積み上げたところからどのくらいまで回復したのか、数字を見てそこでもっと上げていくためには何をしたらいいのかということを考えていかれたらいいのかなと思って質問させていただいた。
須賀田委員	いろいろこの計画について素晴らしい計画を立て、毎年実施していただくことに感謝している。今回、10年の計ということで話を伺っていると、シルバーリハビリ体操、のだまめ学校、えんがわ、市民ボランティア、介護予防サポート企業あるいは広報戦略とあるが、やはり10年計画というふうになると、今までの継続ではなく、新しいものを何か持ってきて、こういう方法で10年間のうちに違う健康づくり、あるいはそれに似たものをやっていくというような新しい計画はないのでしょうか。これだと、今までやってきたものの

	継続というふうに感じられるのだが、それも大分充実しているというのを私たちは確認している。そのため、健康づくりができているということも知っているが、この 10 年の中でやはり新しい何かがない、目玉というか、特に野田市では健康スポーツ文化都市というようなことでやっているわけだから、計画の中にもそういう新しいものが欲しいなというふうに思っているが、計画の中ではそれが今聞き取れなかったように思う。それについてはいかがか。
福祉部次長兼高齢者支援課長	その介護予防 10 年の計については、基本的に三つの事業を柱としてということでこれまで実施をしていた。私どもも、実施している事業が全て充実して行われているかという、まだなかなか十分な実施や取組ができていないのではないかと考えている。そのため、まずはこれをいかに充実させていくかというところを考えているところではあるのだが、当然これ以外の事業、新しい取組というものも介護予防に効果的なものであれば、私どももそれは取り入れたいというふうに考えているので、このままずっとやっていくということではなく、常に見直しを考えながら事業は進めていきたいというふうに考えている。
須賀田委員	私が申し上げたいのは、介護予防ということで、それから高齢者もこれから増えてくるので、そういう健康を今保っている人も、それを維持するということが大事だと思うのである。この計画を見ると、健康づくりをして元気をつけようというのではなく、どこかへ行って治してもらおうなど、何かに頼っているという程

副市長	度のもの、前向きなものが少ないのかなというふうに思い、今質問をしている。けがをしたり、病気を抱えたりしてから、どこかへ行って健康づくりをしなくてはというような場面に受け止めるので、やはり健康な人たちが、それを維持できるようなことも予防の大きな役割だと思うのである。それがここでは見えない。私たちはそれが余り感じられなくて、弱りかかった人たちを助ける場面みたいなとり方を、皆もしているから、盛り上がらない点もそういうところにあるのかなと思う。やはり楽しさや、うれしさや、喜びというものを持ちながらやれる介護というものをこれから考えていく必要があるのかなと思いお聞きするところだが、これからこういうものも取り入れながらやることが大事だと思うのである。要するに、約４年間のコロナで大変高齢者が弱ってきた。だからそういうものを助ける、あるいはいかすというか、元気にこれからも長生きしていくための何かというものが予防だと思うのである。予防のとらえ方が、何か行くところがなくて、あるいは助けてもらうことを求めていくようなものが、予防というように取られやすいので、もう少し前向きな健康な人が、そういう生活が長く続けられるような計画もお願いしたいと思いお聞きしたところである。 須賀田委員に限らず、今までの質問を聞き、確かに介護予防１０年の計ということで、これは一朝一夕ではいけないということでの１０年の計だと思うのだけれども、逆に言うと、この１０年の計で行政のＰＤＣＡサイクル自体が余りチェックもされず正しく評価もされず
------------	---

	に、最初に決めた目標を淡々とやっているというところが見られていると思う。特にコロナというような今まで経験したことのないことが起こったのに、それを踏まえての行動ということができていないと思う。フレイル状態になる前の、健康なときもということも非常に大事だと思うので、しっかり急いで検討を進めていきたいと思う。
鈴木会長	他に質問等を委員に問うた。 質問等なし。
鈴木会長	議題2 高齢者なんでも相談室（地域包括支援センター）の令和5年度事業実施報告及び令和6年度事業実施計画について 事務局から報告を受けた。 質問等を委員に問うた。
白島委員	南第2包括の進捗状況について教えてほしい。それに伴って、いつ稼働する予定か教えてほしい。
福祉部次長兼高齢者支援課長	進捗状況だが、現在木野崎病院で職員の募集をしているという状況で、まだ職員は集まっていないということで、報告を受けている。 開設時期については、現在そのような状況なので、いつ開設というところまでは申し上げる状況にはない。ただし、職員の採用状況も含めて、市でも木野崎病院とは十分調整をした上で、体制がきちんと整っているのを確認してから開設という形に持っていきたいと思う。

白島委員	介護人材不足で、弊社もそうだが、ケアマネジャーや介護士などがなかなかそろわないという状況は良く分かる。野田市でも基幹型が中心になり、医療・介護連携をしたり、市も一緒になってICTをやっていたいたりなど、いい流れはできていると思う。ただし、基幹型が中心となってそういうことを進めていくところを、南第2包括がないために基幹型がそれをフォローしている状態が続くということは、こちらの方が遅れてくるという結果になると思うので、なるべく早く南第2包括を市も協力して作ってほしいと思い伺った。
三輪委員	39 ページ目の真ん中辺にあるオレンジカフェ（認知症カフェ）について伺いたいんだけど、二点ほどある。 資料では、令和5年度の新規は2件ということなのだが、ここに挙げている9件について、右側に交付決定日を書いてあるのんだけど、5年度においてもこの九つのカフェに支給したのかということと、金額としてはどれくらいになるのかということである。これが一点目である。 それから、これは補助ということだと思うのだが、補助金を支給するにはそれぞれの計画を出し、年間の参加者数、年間開催日数など、当然そういうものは把握されているのではないかなと思うんだけど、年間どれくらい参加されているのか、そういった活動実態を教えてほしい。 私も地元でオレンジカフェに参加しているのだが、

福祉部次長兼高齢者支援課長	その場合は地域包括支援センターが主催しており、対象は、認知症の当事者、家族やサポーターなどで、大体月に1回ぐらい開催している。多分、お金も当然掛かっていると思うのだけれども、その辺の、今申し上げた二点について回答いただければと思う。 今回ここに9か所載っているが、補助金を交付したものは、令和5年度に開始した2か所になる。市の認知症カフェに対する補助金については、活動初年度に補助金を交付するという形になっているので、それ以外のオレンジカフェに対しては、補助金の交付はしていない。金額は、1団体上限5万円ということで補助をしている。活動については、補助金の交付規則等で、おおむね2月に1回以上定期的に開催し、1回当たり時間は2時間以上であるという要件を設けている。また、認知症に関する専門的知識及び経験を有する医師、薬剤師、保健師などの方を1名以上配置すること、それから会場についても、10人以上が参加できる会場を確保し、地域住民が参加しやすい場所で開催するということで、開催をしていただいているところである。 実際に参加者がどの程度いるかというところについては、現在報告という部分がないというところがあり、実際にどの程度の方が、参加しているのかという正確な数値は把握していないが、基幹型地域包括支援センターが定期的にこのオレンジカフェを訪問させていただいており、実際の活動状況は拝見させていただいているところである。
----------------------	--

高森委員	議題 2 の 29 ページになるのだが、地域ケア包括会議及び生活支援体制整備事業第 1 層協議体の会議の内容として、次年度の重点課題、あるいは市全体で取り組むべき課題の検討の中に、（１）地域で支える集いの場、（２）移動手段、その下には多様な支援やサービスについての検討ということが書かれていると思う。 同様に 33 ページになるが、高齢者支援課による地域ケア包括会議の結果であるが、令和 5 年度に把握した地域課題として、（１）生活支援サービス（移動手段、住民通いの場等）の不足を挙げているかと思う。一方、第 9 期シルバープラン 85、86 ページの東京理科大学との多様なサービスの導入についての共同研究の中で、「多様なサービスのニーズは低く、本調査から、多様なサービスの導入は見送ることとします。」というふうに書かれている。これはアンケート結果によってこういう判断をなされたかと思うのだが、市としてこの多様なサービスを問題として捉えているのかどうかということと、これを実施するに当たっては理科大学のアンケートに基づいて行うものなのかということをお教えいただければと思う。
福祉部次長兼高齢者支援課長	総合事業の中で、どのサービスを実施するかというところについては、東京理科大学と共同でアンケートを実施して、それらを参考にして第 9 期の間は実施しなという結論に至っている。 買物支援サービスというところで申し上げると、会議上で課題として挙がってきてはいるのだが、現在市の方で導入を検討しているかということで申し上げます、現在のところは支援サービスの導入は検討してい

高森委員	ないという状況である。 一点目は、問題として捉えているかどうかというところである。 もう一点は、実施するに当たって、東京理科大とのアンケートが、必要性あると言ったときに初めて実施するものなのかどうかというところを教えていただければと思う。
福祉部次長兼高齢者支援課長	課題として、市としてもこういった課題があるということは認識している。多様なサービスの導入に当たって、東京理科大学とのアンケートの結果によって導入するのかどうかというところで申し上げると、第9期シルバープランの策定の中では、このアンケート結果というものを参考にさせていただいたが、アンケート結果が全てということではないので、市としてはアンケート結果も参考にしながら、その他の状況もいろいろ勘案して決定していくということになると思う。
篠田委員	36 ページ、野田市社会福祉協議会の各地区の課題というところで、関宿地区の私は二川地区なのだけれども、サロン等の交流事業などを実施しているのだが、確かに会場までの距離が遠くて参加できない方がたくさんいる。私たちは一生懸命やっているのですが、もっと参加してほしいのだが、やはり足がないということで、送り迎えをしなければいけない状態があるのだけれども、そういうことについては市でどのようにお考えなのか。 それからからもう一つ、自治会館を活用できないか

副市長	ということもあり、自治会館でやってみたが、そうすると近所の方だけ来ていただいて、人数が減ってしまうのである。大体1回のサロンで50人前後の方が来ていただいて活動している。二川地区なのだけれども、送り迎えのところが一番問題だと思っており、私たちも送り迎えはできない状況なので、そこについてはどのようにお考えなのか。 今の送迎のことにに関して、正直申して、なかなか難しい問題だと思う。市で、例えば迎えに行くということは、現実的には現状ではなかなか難しい。だからその辺は非常に大きな課題だと思っているけれども、今ここで私もこうすればいいというようなことを申し上げるようなことは持ち合わせていない。ネットの時代なので Zoom でやればいいのか、そういうことは現実的ではない部分も多いと思う。その辺はこれを見させていただいても課題なのだけれども、対応というところはなかなか議論されていないところもあると思っているので、皆様と一緒にその辺はどうすればいいのかということを考えていくということになると思う。こういう意見は私もいろいろと考えさせられるところも多いので、貴重な御意見感謝する。
鈴木会長	他に質問等を委員に問うた。 質問等なし。 午後2時40分閉会を宣言